

令和元年度第5回経営協議会議事要旨

日 時 令和2年2月19日(水) 13時00分～14時50分
場 所 札幌駅前サテライト(教室2)
出席者 学外委員：今井、柿沼、蔵本、佐藤、見上
学内委員：蛇穴、佐川、後藤、横山、黒崎
オブザーバー：高橋、中尾、玉井、海老名
欠席者 学外委員：小野寺、松岡

◎ 令和元年度第2回議事要旨の確認等

学長から、資料1に基づき、第2回の議事要旨について説明があり、確認・了承された。

併せて、第3回及び第4回の書面協議の結果について、報告があった。

◎ 議題

1 令和2年度予算編成の基本方針(案)等について

黒崎理事及び財務部長から、国立大学法人運営費交付金予定額及び国立大学法人運営費交付金に係る評価結果における本学の状況等について、報告があった。(関係資料：資料4-1～資料4-3)

続いて、資料2-1から資料2-3に基づき、令和2年度本学予算編成の基本方針(案)及び令和2年度学内予算配分方針(案)について審議が行われ、原案どおり了承され、役員会に付議することとした。

また、資料2-4に基づき、自立的な経営と持続可能な財政基盤の確立を目指す経営力強化方策(案)について説明があり、今後、作り込みの作業を進めた上で、改めて報告することとした。

【学外委員からの主な意見等】

- 社会が変容し、教師の社会的評価を高めていくことが必要な時代となっている。教員養成フラッグシップ大学の制度は、教員養成全体の質的向上をイノベーション的な発想で捉えなおすことがテーマではないかと考える。
- 教員養成フラッグシップ大学への応募に向けて、北海道内の関係機関との密な連携を図るとともに、学長のリーダーシップの下、鋭意、取り組んでほしい。
- 教員養成大学は各都道府県に置かれている。当該大学が単体でプロジェクトを実施した場合、都道府県の壁を越えることが難しく、小規模になってしまうことが多い。都道府県の壁を越えて大学間が連携したHATOプロジェクトの成果を生かせば、教員養成フラッグシップ大学の取組をより革新的にすることができると考える。
- 教員養成フラッグシップ大学のポイントとして、ICTの活用が掲げられている。今後、ICTの専門家や成果を上げている民間企業等との連携により、ICTの活用に取り組むべきと考える。
- 教員養成フラッグシップ大学に指定されることは難関であると考えているが、北海道教育委員会として、できる限り協力していきたいと考える。

◎ 報告

- 1 平成30年度に係る業務の実績に関する評価結果について
海老名副学長から、資料3-1及び資料3-2に基づき、平成30年度の評価結果について、報告があった。
- 2 令和元年度監事監査報告書について
学長から、資料5-1から資料5-3に基づき、監事から提出のあった令和元年度監事監査報告書について、報告があった。

◎ その他

- 1 留学生派遣・受入プログラムと新型コロナウイルス等の影響について
横山理事から、机上配付資料に基づき、留学生派遣・受入プログラムと新型コロナウイルス等の影響について、報告があった。
- 2 函館校教員による不適切な単位認定事案に係る訴訟の判決言渡しについて
学長から、判決後の状況について、報告があった。

以 上